

## エンドユーザーのパソコンでサイバー攻撃を完璧に防ぐ

# Bromiumの最新サイバーセキュリティソフト

企業の情報漏洩にはじまり、公共機関のサイトの麻痺、重要インフラのデータの破壊など、世界のサイバー攻撃はより過激で危険なフェイズに突入している。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでもそうした不安がささやかれている。はたしてオリンピックのサイバーセキュリティ対策は万全か。さっそく話題の画期的なソフトを紹介したい。このソフト、なぜかどんなサイバー攻撃にも対応するというから驚きだ。はたしてその仕組みはどうなっているのか、開発したのは米国Bromium(プロミアム)社、来日したシャバン・ナウム副社長にその実力のほどを聞いてみた。



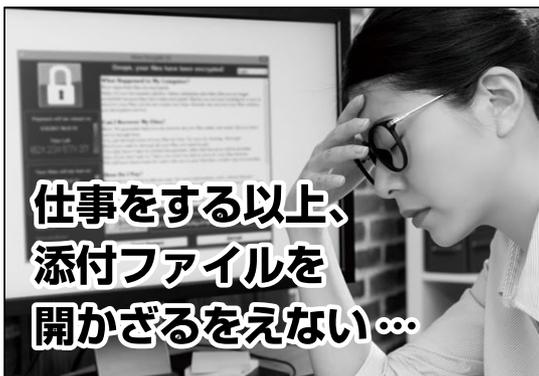
シャバン・ナウム副社長

日本では2020年の東京オリンピック・パラリンピックを機に、サイバーセキュリティの重要性が指摘されている。政府は19年4月に官民一体で「サイバー対策協議会」を発足したが、秒単位で変化し、進化するマルウェア(進化しながら攻撃する感染ウイルス)に対する効果は未知数だ。「日本の社会は安全」とする安全神話も、サイバーセキュリティに対する感覚を鈍らせている一因といわれている。「日本人および日本社会の安全神話は十分に理解できません。たしかに日本人は教育水準、知

識、理解度も高く優秀ですが、セキュリティに関してはまだまだ保守的だと感じます。しかしサイバーセキュリティは、国家や政府がミサイルから防御するようなレベルの問題なのです」と話すのは、まったくあらたな発想で、安価で確実なサイバーセキュリティを実現するソフト「Bromium」を開発したBromium社の戦略・技術担当副社長、シャバン・ナウム氏。Bromiumが画期的なのは「サイバー攻撃を判別せずに隔離する」発想だ。秒単位で変化しつづけるマルウェアを判別して、すべて排除することは不可能に近い。BromiumはマイクロVM(仮想マシン)という方法で、あらゆるデータを選別せずに、いったん、すべてを仮想のパソコンに取り込んで稼働させ、使用後は仮想パソコンごと削除

している企業であれば、それを守ろうとするのは当たり前。サイバーセキュリティに熱心な企業は独自に対応しているケースも多いが、その余力もなく、意識も薄い、あるいは対応が手薄な中小企業などでは、サイバー攻撃の損失は、重要なデータを盗まれてはじめてわかるケースも多い。日本のGDPを下支えしている地域の中小企業が日常的にサイバー攻撃に晒されているということは、ひいては日本経済の危機にもつながっていく。サイバーセキュリティの部署や専任担当者を持たない中小企業や教育機関などにこそ、サイバーセキュリティが求められていることがわかる。

そこでBromium社はこの画期的な「仮想化技術」を取り込んだソフトによってセキュリティ対策をすべきだ、と主張している。従来は専門家が必要としたレベルの管理がこのソフトでコントロールできることも魅力的だ。また、政府がサイバーセキュリティ指針で推奨しているもうひとつのシステムを用意してデータを保存する「ネットワーク分離」という手法よりもはるかに手軽でコストも大幅減になる。Bromiumでサイバー攻撃に備えることが、最新のサイバーセキュリティ対策になりそうだ。



仕事をする以上、添付ファイルを開かざるをえない...

ウイルスを完全隔離\*

添付ファイルを開く時の不安はこれで解消!! 従来とは全く異なる発想のセキュリティツール



【プロミアム】



米国連邦政府機関をはじめ 世界と日本の重要な公的機関・有名企業を含む 400社以上がBromiumを導入しています

\*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(米国Bromium社調べ)  
詳細は[BROAD Security Square]で <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード 〒101-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町7F  
TEL: 03-6205-7463 (代表)

